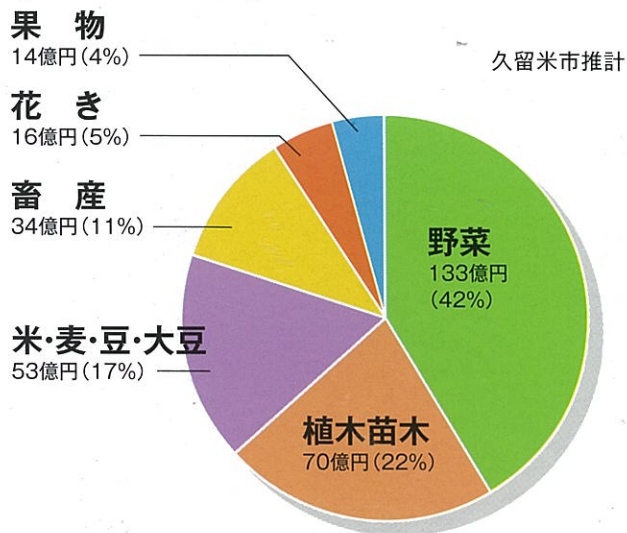


## 久留米市は県内最大の農業生産都市です

久留米市は、豊かな水と緑に恵まれ、昔から農業が盛んに行われてきました。米・麦・大豆、野菜、果物、植木苗木、花き、畜産など様々な品目が生産され、関東・関西の大消費地へ出荷されるなど、農産物の供給基地となっています。

農業は、米、野菜、果物などを作るだけでなく、生物の保全や気候の緩和、良好な景観づくりなど、豊かな農村を形成する重要な役割も果たしています。私たちみんなで、久留米産農産物を味わい、市民共通の財産である本市の農業・農村を守り、未来に伝えていくことが重要です。

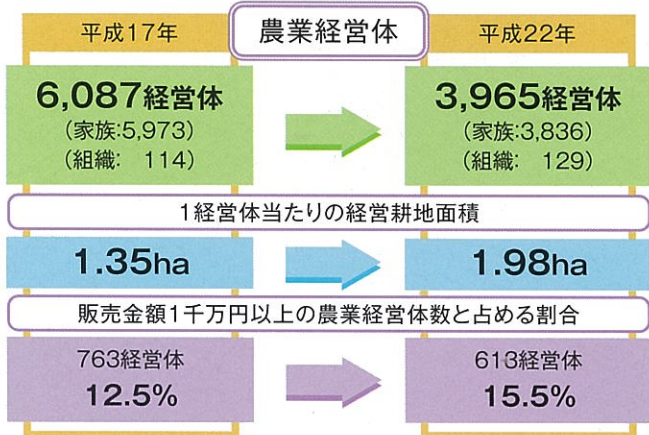
## 久留米市の農業産出額の品目別割合(平成22年) 【総計 320億円】



久留米市の過去10年間の農業産出額は、310億円～340億円で推移しています。野菜の産出額が最も大きく、植木苗木の産出額が大きいことが特徴です。

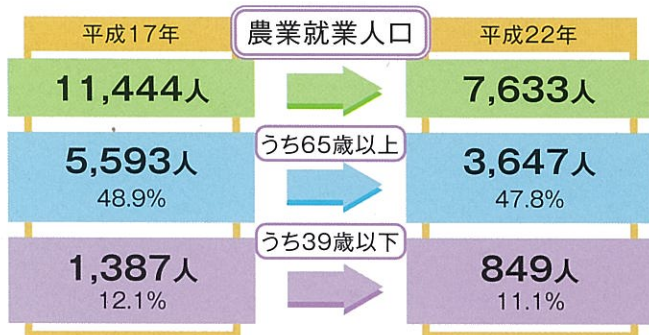
## 久留米市の農業経営体の推移

出典:世界農林業センサス



## 久留米市の農業就業人口(販売農家)の推移

出典:世界農林業センサス



## 大規模経営を行う 農業経営体の割合が増加

5年ごとに国が実施する統計調査「農林業センサス」の結果によると、5年間で農業経営体数が2、122減少しています。その内訳を見ると、家族経営体数が大きく減少し、組織経営体数が増加しています。

農業経営体数が減少する一方で、1経営体あたりの経営耕地面積は拡大し、販売金額1千万円以上の大規模な経営を行う農業経営体の割合も増加しています。

## 久留米市の農業を 守っていくために

65歳以上の農業者が農業就業人口の約半数を占めるなど、農業者の高齢化が進んでいます。さらに、将来の農業を支える39歳以下の若手農業者の割合も減少傾向にあります。

本市の農業を守っていくためには、農業経営規模の拡大を進め、次世代を担う若手農業者を育成することが必要不可欠です。

《Vaeの農業2013》では、農業を職業として選択し、魅力ある農業を展開している、若き農業者や農業法人の若き経営者を紹介します。

本文中にある年齢は、平成25年3月末における年齢です。